

輔仁大学日本語日本文学『日本語日本文学』投稿募集（日本語）

- 1) 当紀要は寄稿及び一般投稿論文を募集しております。一般投稿論文については隨時、受け付けており、本学科及び学外の研究者、専門家によって組織された審査委員会にて厳正なる審査を行います。
- 2) 投稿資格：国内外の研究者、大学院生からの意欲的な投稿を歓迎します。
- 3) 内容：日本文学、日本語学、日本語教育、日本文化の研究論文（実践報告は除く）。
- 4) 未発表のものに限ります。修士論文や博士論文の一部はご遠慮ください。
- 5) 使用言語：日本語。
- 6) 投稿者は当学科（Google フォーム <https://reurl.cc/aMzqWl>）にご投稿ください。
 - ① WORD 形式の論文（1部は記名、もう1部は投稿者の匿名性が守られたもの）
 - ② PDF 形式の論文（1部匿名）
 - ③ 署名入り投稿申請書（PDF 形式）
 - ④ 署名入り著作権譲渡同意書（PDF 形式、電子ジャーナルでの出版の同意が必要です）
 - ⑤ 著作権同意書（本系ホームページ (<http://www.jp.fju.edu.tw/>) よりダウンロードし、プリントアウトしたものに書きこんでください。なお、同意書にも記したとおり、投稿論文の電子書籍化に同意して下さる方に限ります。）
- 7) ① 審査費 NTD2000 元（現金書留）。領収書が必要な方は、送付先と宛名を明記してください。
② 連絡先：242062 新北市新莊区中正路 510 号輔仁大学日本語文学系『日本語日本文学』
TEL : (02) 2905-2596、2905-3729
FAX : (02) 2905-2169
Email : G24@mail.fju.edu.tw
- 8) 書式
 - ① 使用ソフトと設定：Word を使用し、A4 用紙に横書きにする。
 - ② 字数：要旨、図表等も含め 38000 字以内（34 字×38 行×30 頁）。
 - ③ 字数制限を超える場合は審査をお断りすることもありますのでご了承ください。なお字体、行空け等、細かい規定については次頁をご参照下さい。
 - ④ 論文の順序：要旨、本文（注、図表を含む）、付表、参考文献。
 - ⑤ 要旨：日本語、中国語、英語の順で、字数はそれぞれ 600 字以内、キーワード 5 つ以内。
- 9) その他注意事項
 - ① 論文は投稿書式を参照し、それに従って下さい。当編集委員会の訂正・校正など編集作業の簡略化にご協力下さい。
 - ② 論文末には必ず参考文献一覧を付けてください。（本論の中（図表を含む）の文献で重要なものは脚注に書いてください。そして、脚注で示した文献はすべて論文末の参考文献に載せてください）。
 - ③ 図表の中で重要度の低いものは文末の付録にしてください。その場合、文末の参考文献一覧に書名等記入する必要はありません。
 - ④ 参考文献は日本語、中国語、英語の順に並べてください。なお、参考文献の雑誌論文や期刊論文は掲載ページ数も併記してください。著作の場合、総ページ数は必要ありません。
 - ⑤ 匿名で査読するため、注も含め「拙稿」や「筆者が〇〇において述べたように」という表記はやめてください。
 - ⑥ 審査の段階では謝辞などは入れないでください。
 - ⑦ 投稿する論文が「～再考」といった種類のものの場合、もとになった論文がどこでいつ発表されたものかを論文中に明記してください。
 - ⑧ A. 文学研究論文の場合、英文要旨の日本の作家名（例：川端康成）など固有名詞は

- 原文のままで（例：Kawabada Yasunari）、作品名は“ ”で示してください。
- B. 文学以外の研究論文の場合、英文要旨の先行研究の研究者名（例：金田一春彦）は姓の後に文献の西暦発表年（例：Kindaichi (1989)）を記してください。
- C. 本文、脚注の引用ページ数は文学研究論文の場合、「頁」「pp./p.」のどちらの表記でもいいですが、統一してください。文学以外研究論文の場合、「pp./p.」で示してください。
- D. 本文、脚注の参考文献を示す場合、西暦で示してください。
- 10) 審査結果は以下の通りです。
- 掲載 修正後掲載 掲載不可
- 審査意見が分かれた場合は第三審となります。**
- 11) 投稿者には論文集2冊をお送りします。
- 12) 締め切りは毎年2月28日（消印有効）、発行は毎年7月31日となります。なお、投稿は一人一編に限ります。
- 13) 本誌掲載の論文は、本学科の同意なくして他の紀要、雑誌などに掲載することはできません。本誌掲載の全ての論文の版権は本学科（本誌）に属します（電子ジャーナルも含む）。著作権は論文執筆者本人に属します。なお、掲載論文の利用方法は以下の通りです。
- ① 出版する際には、書籍、もしくは電子ジャーナルの形で行う。
 - ② デジタル化を進める上で、データベースのコピー・インターネット上で公開された資料へのアクセス・ダウンロード・プリントアウト・閲覧などのサービスを提供する。
 - ③ 国家図書館や他のデータベース業者に対し本誌掲載論文の資料提供をする場合、論文の書式などを変更する場合もある。
- 14) 著者校正は初校のみとします。初校の段階での誤植以外の大幅な修正は原則として認めることができません。
- 15) 審査後、修正が必要とされた論文についての掲載決定権は、本編集部にあります。審査、修正の遅れなどで期日までに完全稿（投稿書式に合わない論文も含む）が間に合わなかった場合、次号に掲載が延ばされる場合もありますので、ご了承下さい。

『日本語日本文学』投稿論文書式詳細（日文）

A4用紙を用い、Windows Word で横書き、34字×38行×30頁
38000字以内（日本語、中国語、英語の要旨含む）。

余白：上下 2.54cm 左右 3.17cm

字体等は以下の通りです。

		明朝体	Gothic 体
Windows Word (ファイル 名.doc) (ファイル名に はアルファベッ トを使用して下 さい)	日本語	MS Mincho	MS Gothic
	中国語	新明朝体	中黒体
	英語	Times New Roman	Arial
	数字	Times New Roman	Arial

論文名 : 14 point Gothic 体
執筆者名 : 12 point 明朝体 (記名論文一部のみ)
所属機関、役職名 : 12 point 明朝体 (記名論文一部のみ)
本文 : 12 point 明朝体
注 : 10 point 明朝体 (Word の脚注機能を使用し、各頁末に)。
参考文献 : 12 point 明朝体
資料 : 12 point 明朝体

- * 論文名と執筆者名の間は一行空き。
- * 所属機関及び役職名と本文の間は一行空き。
- * 章や節、項の表示は 12point Gothic 体で、以下のとおり。
 - 第一章→1
 - 第一章 第二節→1.2
 - 第一章 第二節 第三項→1.2.3
- * 章と章の間は一行空き。
- * 段分けの際、各段の一行目は一マス目を空け、引用の際は、引用文全体を二マス分下げて引用すること。
なお引用文と本文の間は行を空けないこと。
- * 図表中の文字は本文にならい、本文との間は原則として一行空き。
- * 参考文献もしくは注で引用文献を示す際、執筆者名、出版年、論文名、(書名)、(編著者名)、出版社名、頁数の順で記入して下さい。

要旨の書式 :

日文テーマ (MS Gothic 14p、真中置き)

(一行あける)

執筆者名 (MS Mincho 12p、真中置き) * (插入註腳)

(一行あける)

要旨 (MS Mincho 14p、真中置き)

(一行あける)

論文要旨内容 (MS Mincho 12 p、一字下げ)

.....
.....。

(空二行)

キーワード：第一個 第二個 第三個 第四個 第五個

*執筆者所属機関役職名(日文) (MS Mincho 10p)

中文題目 (中黑體 14p、置中)

(空一行)

作者姓名 (新細明體 12p) * (插入註腳)

(空一行)

摘要（新細明體 14p、置中）
(空一行)

摘要内文（新明朝体 12p、二字下げ）.....

（空二行）

關鍵詞：第一個 第二個 第三個 第四個 第五個

*作者所屬單位職稱（新細明體 10p）

英文題目（Arial 14p、置中）
(空一行)

作者姓名（Times New Roman 12p）*（插入註腳）
(空一行)

Abstract （Times New Roman 14point、置中）
(空一行)

摘要内文（Times New Roman 12p、四字下げ）.....
.....
.....

（空二行）

Key words：第一個 第二個 第三個 第四個 第五個

*作者所屬單位職稱（英文）（Times New Roman 10p）

参考文献書式：

参考文献（五十音順）

数字と英語は Times New Roman、日本語は MS Mincho、中国語は新細明体
(全て 12p)

英文(abc 順)、日本語(五十音順)、中国語(筆順)、インターネット・Web ページ類

Christiane Nord (1991), "Text Analysis in Translation: Theory, Methodology, and Didactic Application of a Model for Translation-oriented Text Analysis," Amsterdam-New York: Rodopi B.V.

河野六郎 (1994)『文字論』三省堂

周祖越、覃树城、柯慧、程耕 (2018)〈智慧翻譯與人工翻譯的比較研究〉《青年時代》2018年33期、pp.25 - 26

『大辞林』(第三版) <https://www.weblio.jp/cat/dictionary/ssdjj> (2019年1月15日検索)

(著書範例)

河野六郎 (1994) 『文字論』三省堂

藤川正數 (1991) 『森鷗外と漢詩』有精堂

(著書論文範例)

小熊英二 (2010) 「金闕丈夫と『民俗台灣』—民俗調査と優生政策—」篠原徹編『近代日本の他者像と自画像』柏書房、pp.24-53

(紀要、期刊論文範例)

小池康 (2011) 「日本語能力試験を再構成したテストの実施と分析：古典的テスト理論と項目応答理論を用いて」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』26号、pp.37- 57

岡本勝 (1982) 「『鵠尾冠』『庭竈集』『ひるねの種』『雑談集』(補訂)」鈴木勝忠編『蕉門俳書の総合的研究』岐阜大学教育学部、pp.21-23

(新聞、雑誌範例)

飯岡秀三 (1919)「探偵物語 士林川血染船(其一)」『台法月報』第31卷第6号、pp.122-123

台湾日日新報社 『台湾日日新報』1901～1942年

インターネット・Web ページ類

『大辞林』(第三版) <https://www.weblio.jp/cat/dictionary/ssdjj> (2019年1月15日検索)